

## 子育て応援！ 府民公開フォーラム

- 日時：平成27年2月8日(日) 13:00～16:30
- 会場：京都府立医科大学図書館ホール・ロビー(附属図書館・合同講義棟1・2階)
- 開会挨拶：京都府立医科大学 学長 吉川 敏一
- 京都府知事からのメッセージ
- 特別講演：  
座長 京都府立医科大学 小児科学教室 教授 細井 創

### 「小児医療・保健分野での子育て支援の推進」

国立成育医療研究センター 理事長・総長 五十嵐 隆氏

- パネルディスカッション：  
司会 京都府立医科大学 男女共同参画推進センター 副センター長 三沢あき子  
「子どもを安心して産み育てられる京都を目指して」
  - ① 産婦人科医の立場から 足立病院 院長 畑山 博氏
  - ② 小児科医の立場から 田辺中央病院 理事長 石丸 庸介氏
  - ③ 子育て支援NPOの立場から NPO法人おふいすパワーアップ 代表 丸橋 泰子氏
- 閉会挨拶：京都府立医科大学 男女共同参画推進センター長 矢部 千尋

- 趣旨：

京都府立医科大学では、府民の健康を支える医師・看護師等が安心して子育てと仕事の両立をできる支援に取り組んでいます。この度、子育て支援の取組を拡げることが目的として府民公開フォーラムを開催いたします。

- 主催：京都府立医科大学 男女共同参画推進センター
- 後援：京都府、京都小児科医会、京都府医学振興会

## 特別講演：「小児医療・保健分野での子育て支援の推進」

国立成育医療研究センター 理事長・総長 五十嵐 隆 氏

わが国の乳児死亡率は世界最低で、子どもの育ちの指標であるChild Development Indexも世界一を誇ります。しかしながら、わが国では他の先進諸国よりも人間同士の有機的なつながりが失われ、子育てをする家族が孤立しています。わが国は先進諸国の中で9番目に子どもの貧困率が高い国で、自分や社会に対する信頼を失い、社会に貢献しようとしてもできないと考える子どもを作り出しています。貧困は小児虐待の原因の一つにもなります。

日本小児科学会はこれまで小児救急医療体制の確立、電話相談への協力、予防接種体制の充実、保育環境の整備、慢性疾患を持つ子どもの在宅医療支援、事故(障害)予防などの事業を通じて、子育てを支援してきました。小児科医は子どもの総合医で、子育て応援団です。お子さんに関することはどんなことでもかかりつけの小児科医に御相談戴きたく思います。

わが国では政府から子どもや子育てに支出される予算は高齢者に比べ極めて少ないのが現状です。保健・医療・福祉を包含した子どもや若年成人のための総合的社会的支援制度である「成育基本法」を成立させ、わが国における子育てをさらに充実させることを目指しています。

### ● Memo

## パネルディスカッション 「子どもを安心して産み育てられる京都を目指して」

### ① 産婦人科医の立場から 足立病院 院長 畑山 博 氏

人口減少社会において、産婦人科病院として患者数を維持するのは非常に難しいのが現状です。実際、分娩を取り扱う施設は年々減少しますし、産婦人科を希望する医学生や医師も減ってきております。もちろん、仕事内容が激務であることも理由のひとつですが、将来、患者さんが増える可能性が少ないのも一因だと思われまます。

私たちの病院は、京都市中京区で産婦人科専門病院として110年、たくさんの分娩を扱ってきておりましたが、20年ほど前から分娩数が減少しはじめました。そこで、分娩数を増やすためにいくつかの大きな改革を行ってきております。一つ目は、不妊治療センターを併設して分娩数を自分たちで増やすという努力。次に、生まれた後もフォローするための小児科の併設。同時に、子供を産んでよかったと思える環境を提供するための子育て支援センター。また、子育て中の母親の健康を見守るための医療モール(内科、耳鼻科、眼科、皮膚科、泌尿器科、歯科)や乳がん検診センターなどです。

子供のいないご夫婦に子供を授けてあげる、お産を経験したご夫婦に「もう一人産んでみたい」と思える環境を提供する。私たち産婦人科病院ができる少子化対策だと考えております。

### ② 小児科医の立場から 田辺中央病院 理事長 石丸 庸介 氏

近年、わが国では子育て支援、少子化対策は最重要課題とされています。これから訪れる人口減少社会において、子どもを産み、育てていきたいと願う親御さんが、安心して、かつ幸せにその想いを遂げられるようにするために、私たち小児科医に何ができるのでしょうか。

ライフスタイルの多様化により、個々の家庭に寄り添った「オーダーメイドな支援」が今、求められています。これを実現するためには、それぞれの地域性も考慮しながら、医療・保健・福祉が一体となって親御さん・お子さんをサポートする体制づくりが重要です。おなかに赤ちゃんが宿ったときから、出産・育児・学童期の支援に至るまで、身近なワンストップの相談窓口を通じて切れ目のないサポートを受けられるようなシステムを実現できれば、子育て世代の方々にとっての大きな「あんしん」につながるのではないかと考えます。

今回のディスカッションでは、私どもの法人が所在する京田辺市における子育て支援の取り組みの現状についてご紹介するとともに、国内外の事例も交えながら、京都府におけるこれからの子育て支援の在り方について皆様と一緒に考えてまいりたいと思います。

### ③ 子育て支援NPOの立場から NPOおふいすパワーアップ代表 丸橋 泰子 氏

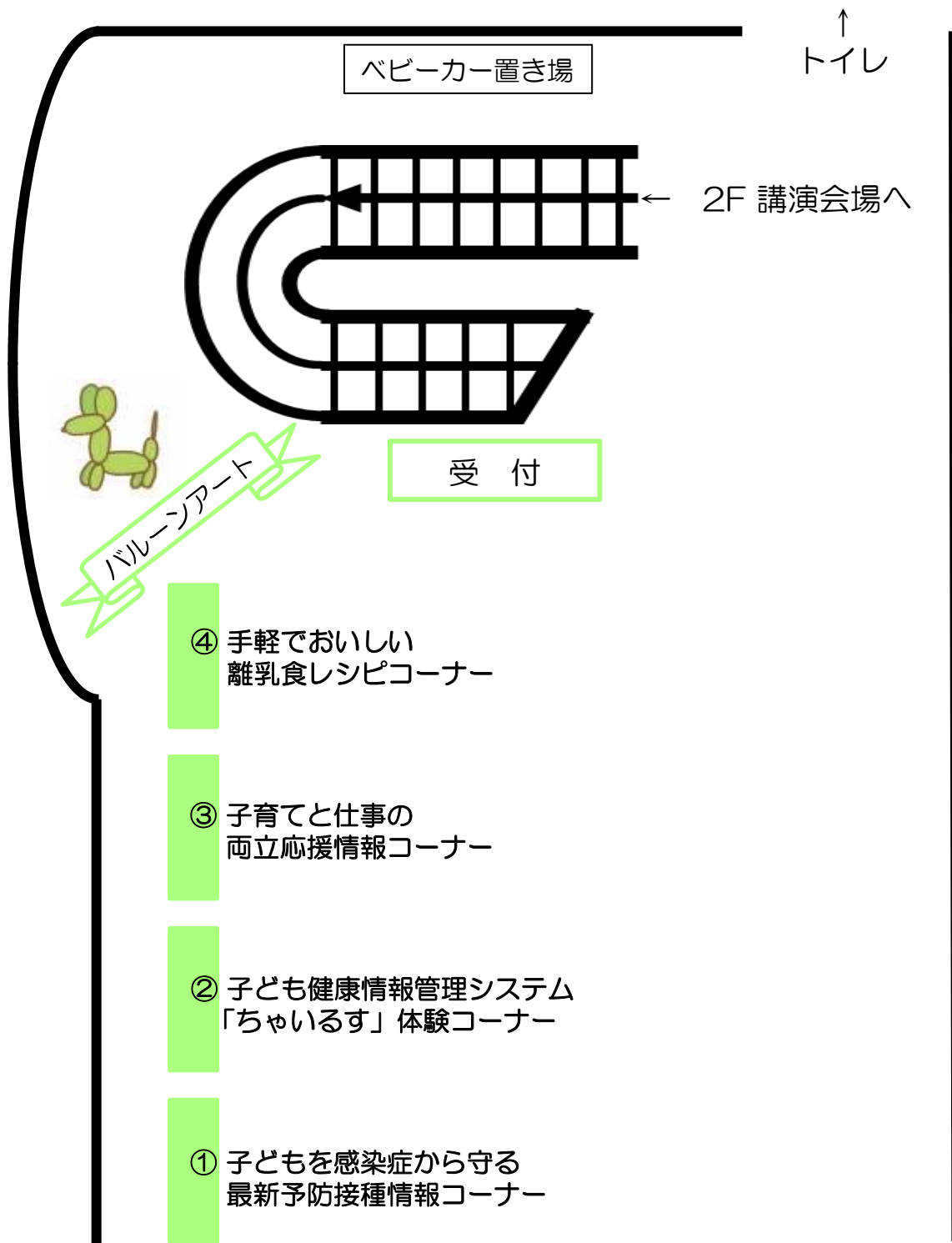
「働きたいママ、働かないといけないママ」を少しでも支えたいと活動を続けているNPOとして、「京都 幼稚園・保育園情報」を発刊し、一番重要な働くときの子どもを預ける環境を取材し、少しでもより質の高い保育の見極めに協力したいと考えています。保育園入園については、新制度への移行という混乱もある中、まだまだ厳しい現実が立ちはだかっています。無事に入園できても、子どもを育てながらの仕事との両立は並大抵のことではありません。時間も無い中「毎日が綱渡り」というママは大勢います。子育て支援のNPOとして、一番重要と感じる「最新の信頼できる情報の入手」と、「支え合える人との出会い」を支援したい。4年前から受託している京都ジョブパークマザーズジョブカフェのママさんコンシェルジュ事業でも多くの相談を受けています。

多くのママが子育てする中で、人間としても非常に成長を遂げていきます。「母親というキャリア」のある女性医療職こそ最大の人財では。「本当にこの仕事がしたい」という思いを持つ有能なママをいかに継続できるように支援していくのか。これからの日本の将来がかかっていると言っても過言ではありません。

# 1F ロビーマップ

子育て応援情報コーナー & バルーンアート

13:00~13:50



正面玄関

※ 赤ちゃん休憩室・おむつ替えコーナーは2階にあります。